「東京電力は責任をとれ！柏崎刈羽原発再稼働するな！汚染水止めろ！」デモ
（3月10日、撮影：国富建治）

談論暴発

▶さよなーらー天皇ー昭和が終わるー　と歌ってから早30年が経った。代替わりの儀式が始まったとかで、天皇が「神の子孫」であり続けている映像が「あきひとよいひとえらいひと」キャンペーンに組み込まれて流れている。それを横目で眺めながら、講座の準備で『戦場の軍法会議』（新潮文庫）を読んでいた。▶海軍法務官の遺した資料と証言から軍法会議の「不当判決」を辿っていくと、やはり、というか、またか、というか、例の大きな壁にぶち当たる。いつもそうだ、戦争に関する諸々の責任の所在を探ろうとすれば、必ずといっていいほど立ちはだかる天皇の壁。「天皇免責」という四文字のために、そして一握りの人々の保身のために、一体どれほどの証拠が闇に葬られ、どれほどの事実が宙ぶらりんにされ、どれほどの人々にどれほどの苦しみをもたらしたのか。▶戦争を体験した人も体験しない人も、30歳、年を取った。さよなら天皇、忘れはしない。（綾瀬川）

contents

事務局から

【お詫びと訂正】前号（第９号）「状況批評」（p.5）の記事中に「竹田氏が……２億3000万ドルを送金した」等とあるのは、「2億3000万円」の間違いでした。お詫びして訂正いたします（編集部）。
●第10号をお届けします。次号（11号）は４月26日発行予定です。

政府は通信の秘密を侵害するハッキング調査を中止すべきだ

よく知られているように、私たちの日常の道具、パソコンやスマホ、さまざまなネットにアクセスしている機器は、監視の道具でもある。私たちは、政府は国益のために、企業は利潤のために私たちの動静を監視する道具に囲まれて暮している。特高警察がネットを棲み家にして私たちの日常を監視しているようなものかもしれない。

しかし他方で、急速に普及するネットに接続された機器類が必ずしも十分なセキュリティが確保されていないこともよく知られている。国家レベルのハッカーであれば、容易に私たちの機器類に侵入できるのだが、外国の政府がこうした行為を行うことをどこの国の政府も明らかに警戒している。サイバースペースには国境がなく、自由に越境できてしまうことは、領土の観念に異常に執着する国家の権力にとってはやっかいなことと感じられている。越境する好ましくない情報を遮断し、また、勝手に「わが国の国民」のプライバシーを侵害するような輩を排除することが、国家の責務だと考えている。

こうして２月下旬から始まった総務省による全国民の戸締り確認調査とでもいうべき、ネットのセキュリティ調査―私たちはハッキング調査と呼んでいる―が大々的に開始されることになった。サイバー攻撃の脆弱性への対応のための調査だというわけだ。

本来なら、こうしたハッキング調査は、明らかな国家による犯罪行為である。しかし、昨年秋の国会で、ほとんど議論もなく、合法化されてしまった。共産党だけが反対した。他の野党は、ハッキング調査の意味を理解できないまま漫然と賛成したように思われる。

このハッキング調査は、日本国内のインターネットのアクセスに用いられる約２億のIPアドレスを総当たりで、虱潰しに調べて、不正に侵入できるかどうかを実際にやってみる、というものだ。本来なら安直なパスワードで売られた機器は、メーカーが回収して修繕すべきだが、そうはせずに、全て消費者の責任にしてしまった。

総務省は、侵入の可能性の有無を調べるだけで、実際に侵入しないから、プライバシーの侵害はないと強調している。しかし、その一方で、どのようなハッキングの技術が用いられるのかは一切公開されていない。もし何らかのリスクが発見された場合には、プロバイダー経由で当該のユーザに連絡がくるという。

実社会でいえば、警察官が個別訪問して、家の戸締りを確認するのと似ている。しかし、ちょっと違うのは、ネットのばあいは、侵入の痕跡を素人が見つけることは難しく、また、セキュリティの甘い入口から入って次々と別のネットへと侵入することが可能な点だろう。

政府、警察にとってはネットの甘いセキュリティは彼らが私たちを監視する上では大変便利な環境でもある。戸締りを怠っている運動団体の事務所にひそかに忍び込んで内部文書などを盗むようなものだからだ。では、なぜあえてわざわざ私たちに戸締りをさせて、通信環境を監視しづらいものにしようというのだろうか。理由は二つあると思う。

ひとつは、私たちの日常生活の必需品になっているパソコン、スマホや様々なIoTと呼ばれる機器類の脆弱性を衝いて社会インフラなど重要なネットワークに侵入することが不可能ではないから、私たち一人一人のプライバシーや通信の秘密の権利を抑制してでも、社会インフラを防衛するために、「戸締り」を強化しようということだろう。

もうひとつは、「裏口(バックドア)」とか「マスタキー」政策などと呼ばれるもので、強固なセキュリティを確保させせつつ、政府だけは例外的に、この強固なセキュリティを破ることが可能な手段を持てるように法律や技術の仕様を定めることを視野に入れているのではないか、ということだ。バックドア問題は、中国のファーウェイのスマホが中国政府に情報収集を可能にする裏口を仕込んでいるのでは、という米国のキャンペーンでよく使われる言葉だ。以前から米国などの諜報機関がバックドアを仕込んでいるのではという疑念が持たれてきた。サイバーテロとかサイバー攻撃を繰り返し強調して不安を煽る日本政府は、将来、日本で使用できる暗号やセキュリティ技術が日本政府によって解読できるものでなければ違法化する可能性もある。監視カメラや指紋などの生体認証への人々の危機感の希薄化が起きてきたように、人々が政府によるネット監視を当たり前のように受け入れてしまう感覚を醸成したがっているのかもしれない。

今回の実験で、政府は、ネットのユーザ個人がいつどのようなサイトにアクセスしているのかをプロバイダー経由で把握可能だということも明らかになった。反体制運動、反政府運動の活動家にとっては、こうした環境は文字通り運動の死を意味しかねない。アラブの春が急速に収束した背景には、政府のネット監視に基づく大弾圧あった。こうしたことがどこの国でも起きうることを忘れてはなるまい。だから、今、世界的にも、活動家たちは必死になって、政府の監視から自分たちのコミュニケーションを防衛するための独自の方法をとりはじめている。日本ではまだこうした関心が薄いことが危惧される。天皇代替わり、オリンピック、外国人労働者の受け入れ拡大、参議院選挙から改憲へという流れのなかで、政府による人々への監視はさらに強められるに違いない。どのように自分たちの通信の秘密を確保しつつ運動を拡げていくか、真剣な議論が必要になっていると思う。

下記に今回のハッキング調査への抗議声明が掲載されています。是非、お読みください。
https://www.alt-movements.org/han-kanshi/

（小倉利丸）

天皇「代替わり」反対！
4 /27－5/1「終わりにしよう天皇制！反天WEEK」へ

■天皇「代替わり」－〈奉祝ファシズム〉への総抗議を！

いよいよアキヒトが退位し、ナルヒトが新天皇となる５月１日が近づいてきました。

110団体の賛同と共に活動している「終わりにしよう天皇制！『代替わり』反対ネットワーク」（おわてんねっと）は、4/27～5/1の連日の行動への結集を全力で呼びかけます。

政府は、「新天皇即位を国民こぞって祝う10連休」として、天皇代替わりの〈奉祝ファシズム〉を演出しようとしています。「そうですか…」っとは、いきません！　わたしたちはこれに５日連続の対抗アクションをぶつけて、「反天Week」として展開します。

そもそも政府は、天皇の生前退位による「代替わり」日程を、４月29日（昭和の日・昭和天皇誕生日）との連続を意識して設定しました。４・29はヒロヒトの日、４・30「退位の日」はアキヒトの日、５・１「即位の日」はナルヒトの日というわけです。いまを生きる私たちに、「昭和」の時代に生まれてなかった人たちも含めて、「天皇三代」の血の歴史を強烈にアピールしようという意図を読み取れます。

わたしたちはその政府の意図に対抗すべく、ヒロヒト・アキヒト・ナルヒトの継承性をトータルにブチかます行動を追求したいと考えています。これは、決して社会運動の主流にはなれなかったけれど、しかし「平成」の時代も一度も枯れることなく続いてきた反天皇制運動の意地と正義を証明するWeekです。

多分この通信を読んでいる方には「天皇に共感」を持っている人は少ないと思います。でも、「いま天皇制反対は優先順位は高くない」と思っている人はいるかもしれない。そういう皆さんにこそ、この一週間だけは現場に出てきていただきたいと思います。なにしろ代替わりです。天皇制一番の弱体期、動揺期です。あの男が辞めて、あの男が即位するのですから。

その「動揺」を覆い隠すために、天皇制秩序から利益を得ている者たちは、必死になって〈奉祝ファシズム〉を強制するのです。文科省はすでに、学校への祝意指導を要請する通知を出すことを検討しています。恫喝がかけられているのです。「祝わないような奴は、非国民ですよ」と。

ここまできて、「黙ってみてていいのか」とハッキリ言いたい。10連休？旅行？違うだろ、と。反天Weekだろ、と。

■アキヒト天皇制、最悪。

アキヒトの時代がもうすぐ終わります。「天皇制には違和感。でも明仁は結構いい天皇だった」という人もいます。わたしの意見は全然ちがいます。アキヒト、最悪です。騙された人が多い分、むしろ悪い。「平成」時代、アキヒトのおかげで日本が良くなったこと、ひとつでもありますか？　ない。一個もない。悪い事しかない。

韓国の国会議長が、「戦争最高責任者の息子である明仁天皇が、元慰安婦の皆さんに謝罪してくれれば、解決の道が開けるのではないか」と言いましたね。日本では大炎上。普段よさげな感じの人でも、「ちょっと極端なんじゃない？」とか言い出す。しかしこんなこと、求められるのは当たり前じゃないですか。君主然として振舞ってるんですから。それなのに何となく「韓国がこじらせてる」みたいになる。

天皇が福島に行く、「復興に寄り添う」という。沖縄に行く、「沖縄に寄り添う」という。違うでしょと。天皇の言葉から、原発事故に行きついてしまった日本近代科学を深く見直す想像力は決して生まれない。なぜ沖縄が捨て石にされ、米国に捧げられたのかという考察は決して生まれない。ただのムード。「いい人」っぽい空気感だけ。天皇が「悲劇」のもとに駆け付けて、「悲劇」を消費して、それを眺めて日本人は「陛下いい人～」「自分もいい人～」と溜飲さげておしまい。

だからいつまでたってもダメ。天皇が、苦しんでいる人、困難な状況にある人のところに行けば行くだけダメになる。問題は解決しない。逆にしなくなる。見てのとおり、沖縄も、福島も、格差も、差別も、虐待も。何も解決しない。実際にしてないじゃないですか。この無力感と、「国民統合の象徴」にアレを戴いていることと、無関係なはずがない。

■政治を取り戻そう、そのために「反天Week」へ

まとめます。わたしは政治を自分たちの手に取り戻したいのです。世界の圧倒的多数の人々は、民族解放闘争や民主化闘争を通じて、自分たちの政治、という感覚を知っています。旧帝国主義国家に生まれた私（たちは）、多分、天皇制に反対する闘いのなかから、その感覚を育んでいくしかないのだと思います。

なぜなら恐らく、もうそうしなければ生き抜くことも困難になると思うからです。東京五輪のあと、2020年代以降の日本社会は、かなり厳しいことになるでしょう。帝国主義の遺産や、冷戦体制の恩恵は、そろそろ底をつきそうです。壁を破ること、想像力を解き放つこと、天皇に何かを仮託した見世物の「政治」を終わらせることが必要なのは明らかではないですか！

アジアの民主化闘争の末席に立てるか、いま私たちは問われています。どうぞ一つでも二つでも、願わくば全日、反天Weekの行動に結集を。終わりにしよう天皇制！　この闘いの「賭け金」は、想像以上に大きいですよ！

（井上森／おわてんねっと）

＊　＊　＊

４/27-５/1終わりにしよう天皇制！反天WEEK

4月27日（土）
今こそ問い直そう！天皇制　練馬集会
講演：伊藤晃「象徴天皇制の正体」
●会場：練馬区立厚生文化会館（練馬駅10分）
●18:15開場/18:30開始予定
主催：アキヒト退位・ナルヒト即位問題を考える練馬の会

以下、主催はすべて「おわてんねっと」です。

4月28日（日）
沖縄デー集会
講演：天野恵一「アキヒト天皇と沖縄」
●文京区民センター2A（水道橋駅・後楽園駅）
●17:45開場/18:00開始

4月29日（月）
反「昭和の日」立川デモ
●緑町公園（立川駅からモノレール下歩道を北上10分・IKEA向かい）
●13:15開始/14:00デモ出発　※立川テント村と共催

4月30日（火）
退位で終わろう天皇制！新宿大アピール
●新宿東口アルタ前広場・16:30集合

5月１日（水）
新天皇いらない銀座デモ
●ニュー新橋ビル地下2Ｆホール（新橋駅前）
●16:00開始/17:00デモ出発

「沖縄の元海兵隊員による性暴力殺害から3年
——基地・軍隊はいらない！　4・29会」にご参加ください

沖縄で、20歳の女性が元海兵隊員の米軍属によって性暴力を受け、殺害遺棄されてから3年がたちます。

昨年夏には全国知事会が、日米地位協定の抜本的な見直しを含む「米軍基地負担に関する提言」を日米両政府に提出しましたが、米軍に有利な地位協定はいまだ改正されていません。日米両政府が米軍属の範囲を明確にするとして署名した「日米地位協定の軍属に関する補足協定」も、わずか10人を軍属からはずしたに過ぎない結果に終わりました。安倍政権のもと、奄美諸島・琉球弧の島じまには自衛隊配備が強化され、辺野古や高江では米軍基地建設が沖縄の民意と美しい自然とを破壊しつつ強行されています。

米軍基地あるがゆえに繰り返される性暴力、犯罪や事故——わたしたちになにができたか・これからできるのか。沖縄の声に耳を傾け、思いをめぐらせましょう。“基地はいらない”の声を繰り返し何度でもあげましょう。4月29日の集会にどうぞご参集ください。

（基地・軍隊はいらない4・29集会実行委員会）

＊　＊　＊

「沖縄の元海兵隊員による性暴力殺害から３年——基地・軍隊はいらない！４・29集会」

日時：2019年4月29日（月・休日）18時15分開場　18時半開始

会場：文京区民センター3階　３Ａ会議室
都営地下鉄三田線・大江戸線春日駅Ａ２出口すぐ
東京メトロ丸の内線・南北線後楽園駅徒歩3分

資料代：500円

お話：「米軍人による性暴力を繰り返させないために」
高里鈴代さん（基地・軍隊を許さない行動する女たちの会共同代表、オール沖縄会議共同代表）

音楽：宮城善光さん（ナーグシク　ヨシミツ）
那覇出身。音楽ユニット「寿kotobuki」にてギター、三線、作詞作曲を担当

主催：基地・軍隊はいらない４・２９集会実行委員会
連絡先：沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック（090-3910-4140）

南京大虐殺と靖国神社に抗議した、香港人への弾圧を許してはならない

昨年12月12日、二人の香港人男女が「建造物侵入」で逮捕された。場所は誰もが入ることのできる靖国神社外苑だ。この日は、旧日本軍が南京を陥落させ軍事占拠した1937年12月13日の前後数週間、いわゆる日本軍によって展開された「南京大虐殺」の日々の１日にあたる。

男性は、「南京大虐殺を忘れるな　日本の虐殺の責任を追及する」と書かれた横断幕を広げ、「甲級戦犯東条英機」と書かれた紙を容器の中で燃やした。日本の軍国主義、南京大虐殺、靖国神社Ａ級戦犯合祀に対する抗議である。女性は、男性の行動をビデオ撮影をしていただけだ。だがすぐに靖国神社の守衛が制止に入り、二人は取り押さえられ、警視庁に引き渡された。

その日からすでに３ヶ月以上がたつ。二人は、「正当な理由なく靖国神社の敷地内に侵入した」建造物侵入という容疑で起訴され、いまもなお東京拘置所に囚われたままだ。３月７日に第１回公判を終え、いまは同月19日の第２回公判を目前に、その準備中だ。

第１回公判。男性は、日本の中国侵略・戦争責任と、それを支えた靖国神社の問題を述べた。そして在香港の日本総領事館が、日中戦争や南京大虐殺の記念日に香港市民が何十年も続けてきた申し入れを、第二次安倍政権以降は文書の受取りすら拒否し、抗議の声を届ける先がなく、非暴力の抗議行動として今回の行為を行ったと述べ、無実を主張した。

当日ビデオ撮影をしていた女性は、中国（香港）政府による言論封殺など、さまざまな動きに抗して作られた自律的な市民メディアにボランティアで参加していること、その立場から男性の行動を市民メディアの記者として記録するために来たことを述べた。そして、言論と報道の自由は、国際的にも大切にされるべき価値であると主張した。

当日、香港からカトリックの枢機卿が傍聴。報告集会と記者会見で発言し、拘留中の二人への面会も行った。一方、少なくない右翼が傍聴席を占め、被告に対する暴言を投げつける事態も。

＊私は傍聴抽選に外れ、公判の様子は参加者の報告を参照した。

行動を起こした二人の主張はまったく正当であり、二人に行動を起こさせたのは、戦後責任を無視してきたこの日本社会である。日本軍は香港をも３年８ヶ月間軍事占領した。こういった被害国からの抗議に対する微罪のでっち上げ、起訴・長期拘留は、法廷における右翼の暴言を許す社会に生きる私たちの問題である。二人の行動の正当性と逮捕・起訴・拘留の不当性を明らかにし、二人を支援するための「見せしめ弾圧を許さない会」が結成された。傍聴と、さまざまなご支援を！

●第3回公判の日程は決まり次第、ML等で案内します

カンパ振込先：郵便振替 00100-3-105440　救援連絡センター

＊必ず「12・12靖国抗議弾圧救援」と明記してください

＊振替口座およびブログは現在開設準備中

（桜井大子／12.12靖国抗議見せしめ弾圧を許さない会）

状況批評

県民投票を終えて――沖縄から

松井裕子（南風原九条の会）

■県民投票成功に向かって「やるしかない！」

永年にわたる「辺野古・大浦湾」への新基地建設の解決を見い出そうと様々な試みがなされて来た。その一つに「県民投票」を手だてに基地のこと、沖縄の将来のことを考え、県民の意思を示そうと若者・市民を中心に投票条例制定の為の署名活動が始まったのは2018年５月。この提案は以前から本土の学者、県内政党、各運動体まで巻き込んで喧喧囂囂の論争を引き起こしていた。オール沖縄会議から、県民投票を強く主張する共同代表の呉屋守将氏が抜けたことは各方面にショックを与えたが、彼が一貫して強力な後ろ盾となり支えたことは大きい。

いきなりローカルな話になるが、2015年に結成した島ぐるみ会議・南風原も、毎週水曜日のＣ.シュワブゲート前での座り込み行動を定例化してきた。ご存じのように基地内へ資材を運ぶ工事車両を阻止しようとする私たちの動きは警察機動隊という国家暴力装置で常に封じられてきた。歯噛みするような状況を変えるには圧倒的な数の人々がゲート前に結集して欲しいのが共通した願いだった。

現場が基本の私たちにとっては、県民投票に力を割く余裕はないというのが本音であったが、最低限の協力はしようということになった。町民の方々から問い合わせがあり、熱心に各団体を廻って署名を集め始めたことが伝えられたからである。結果は条例制定に必要な有権者の50分の１を４倍する９万名余が集まり条例制定へ動き出す。

この間には「辺野古埋め立て承認撤回」を宣言した翁長雄志知事が後任を玉城デニー氏に託して命限りの闘いを閉じた。県による「承認撤回」は“私人になりすました”防衛施設局が、「行政不服審査法」を悪用して、仲間内の国土交通大臣から執行停止処分を引き出している。違法な手続きを積み重ねながら工事を強行する国・防衛施設局の悪知恵に県行政は後手に回ることが多い。昨年12月14日からの土砂投入の映像に多くの人がショックを受けたことと思う。最近、安和桟橋で会った福井からの女性は、この映像の衝撃が訪れるきっかけとなったと語っていた。

先行していた「県民投票の会」とは別立てで「辺野古埋立て・新基地建設反対の民意を示す県民投票連絡会」が県政与党・経済界・オール沖縄を網羅して昨年12月初旬に結成。各市町村島ぐるみ組織も知事選に準じた取組みが期待された。現場闘争組（!?）は否定的意見が多かったが、事ここに至ってはやらざるをえない！

2018年は選挙イヤーと言われたが明けて19年も同じ様相を呈してきた。投票数の大方は反対多数と予想されたが、それ故に静観を決め込む“相手方”を向こうに、ひたすら投票率を上げることにエネルギーを注いだ。第一段階は、“県民投票を成功させよう”の青い幟を掲げ、早くから期日前投票を呼びかけた。第二段階は、“埋立て反対に○”をレッドカラーで強調していくことになる。

■県民投票が浮かび上がらせたもの

県民投票が終わり気づくことが幾つかある。

１）条例執行の過程で５市の首長が、“議会の尊重”を楯に拒否を続け、打開策として３択となったが、30%の有権者抜きのダメージを考えると必要な決断だったと思う。妥協の産物であるが、“どちらでもない”選択肢があることで若者の投票行動のきっかけともなったことを新聞記事からうかがうこともできた。

２）これまで見え難かった若者世代が、慎重に・話し合う・考えることに比重を置きながら、彼らのペースで形作ってきた運動が、県知事選に続いて可視化された。

３）５市の首長の“反乱”が長引いた分、連日の新聞・ニュースで県民投票への関心が持続され、各市町村による広報・宣伝不足を補うものとなったのはケガの功名か？　また当該市の市民たちが、首長の判断は主権者の投票権を侵害するものとして損害賠償訴訟などを準備するほどの動きが連携して起こったことも予想外の展開であったであろう。３択提案がむしろ各首長への「助け船」となったことは否めない。

４）自民党県連は３択で決着した照屋守之氏を会長から外した。全県実施を許してしまったことを反省しているそうな。これまで断片的に見えていた琉球諸島の軍事化を目指す日本国内の力が、とりわけ議会が保守多数の市部に着々と及んでいることを一挙に見せつけられた気がしてならない。

５）2010年に地元名護市に“海にも陸にも基地を造らせない”を公約に、稲嶺進市長が誕生。2014年にはオール沖縄のアイデンティティを掲げて翁長雄志県知事誕生。その間の参院選でも伊波洋一氏を選び、沖縄の意思を表してきたが、政府は“選挙は他の要素もあるから”と嘯いてきた。今回は辺野古埋立ての賛否を問う極めて具体的な設問で明確に反対多数の意思を表した。

６）1997年２月21日の名護市民投票では、“ヘリポート基地”への判断を西海岸も含め名護市全体で“否”と示した。防衛施設局の示すバラ色の設計図や戸別訪問までしての介入にもかかわらず、また条例案の２択から４択へ歪められた中での市民の判断は後の運動の支えとなった。今ではヘリ基地どころか強襲揚陸艦も接岸可能の巨大基地計画に変わっているが、今回は県民全体で名護市に振られた新基地建設に“否”を突きつけた。

■普天間飛行場は即時・無条件・全面返還を！

県民が投票の７割以上で普天間の“移設先”とされた辺野古に否を示した。“移設を前提とした返還”の呪縛から自由になり普天間は単独で返還させねばならない。米軍にとり海兵隊基地が無くても展開できる対案をジャーナリストの屋良朝博氏が用意している。普天間の危険性を最大の武器として新基地推進を図る政府の姿をさらにクローズアップさせねばならない。

「雪道」

イ・ナジョン監督（2015年、韓国、121分）

3月2日「韓国映画を見る会」が主催した「雪道」東京特別上映会＆梁澄子さんスペシャルトークに参加した。「共犯者たち」などを上映してきた同会の映画会はいつも満席だ。

ヨンエハルモニが、生業としている編み物の作品を収めに来るところから始まる冒頭シーン。一人暮らしのハルモニは時折、うなされて目を覚ます。若いころの傷が癒えていないのだ。その傷とは……。1944年、日帝の植民地支配下にあった朝鮮のある村。暮らしぶりが違う15歳の二人の少女。ヒョンギは、学校にも通えず、母と弟と暮らしている。一方、ヨンエは裕福な家に育ち、兄に好意を抱くヒョンギを快く思っていない。そのヨンエは勤労挺身隊として日本に行くことになり、ヒャンギはそれを羨ましく思う。ヨンエの旅立ちを見送るヒャンギの前に立ち現れた男は、ヒャンギも日本に行けると誘い、その夜ヒャンギは拉致されて汽車に送り込まれる。その車中で、日本に行ったはずのヨンエに出会う。汽車に詰め込まれた女子たちは、日本軍「慰安所」に送られていく。そこでの苦しく厳しい生活の中で、したたかに生き抜こうとするチョンブンに、ヨンエは軽蔑の視線を向けるが、やがて二人は共に慰め合い、助け合う友情を育んでいく。そして、敗戦色濃厚になった日本軍が移動するとき、二人は脱出し雪の中を逃避行する。残った女子たちは銃で皆殺しにされてしまう。そして流れ弾に当たっていたヨンエは、逃げる途中で死亡する。二人が雪道を逃避行するシーンは印象的だ。一人故郷に帰ったチョンブンは身寄りもなく、戦災の補償を受けるために、ヨンエの名前を借りて生きる。

チェンブンとヨンエの間に築かれていく友情という関係性。この映画のテーマである関係性としてもう一つのエピソードが描かれる。ヨンエハルモニの隣に住む一人暮らしの女子高校生ウンスは何かと問題を起こし、ハルモニはそのたびに世話を焼く。やがて二人の間に心が通うようになると、ハルモニは自分の傷を打ち明ける。それを聞いたウンスは「ハルモニは何も悪くない！」と断言する。そしてヨンエハルモニは、自分の本当の名前を取り戻す。

梁さんは2017年から2018年に韓国で制作された４本の慰安婦関連映画の中で、この映画が一番好きだと言う。性暴力の場面は作らず、コンドームを洗う手は大人の代行によるなど、イ監督の若い女優に対する心配りのすばらしさも教えてくれた。真っ白な雪が少女たちの純真さを象徴するような美しい映像の中で描かれた慰安婦問題。日本政府は当事者を排除した合意などありえないことを知るべきだ。そして、こうした映画が右翼の攻撃を恐れて一般公開されないことに、情けなさと腹立たしさを感じる。ぜひ、一般公開してほしい。

（森本孝子／「平和憲法を守る荒川の会」代表）

『崩壊するアメリカの公教育―日本への警告』

鈴木大裕著　岩波書店刊　1800円+税

憲法に関わる問題の一つとして日本の教育関連図書を取り上げたいと適書を探していた。学齢期の子どもが身辺からいなくなると、問題意識が硬直して、「愛国」「道徳」などのテーマに縛られてきてしまう。もうすこし教育の近くにいる人に相談したい、と思っていたところ、東京地裁のロビーで「日の丸君が代」問題で弾圧された根津公子さんに出会って、表題の書を教示していただいた。相談してほんとうによかったと思う。

鈴木さんは巻末の著者紹介によれば、1973年生まれ。16歳で米国に憧れて留学。そこで出会った高校のウォーカー先生に「予め用意された答えではなく、一人ひとりのの真実を表現することを執拗に求めた。なぜなのか、どうしてそう思うのか。」と問われているうちに鈴木さんはこの先生に自分は発見してもらったという体験をもつ。コールゲート大学教育学部を了えた後、スタンフォード大学教育大学院終了後帰国。すぐ現場に立ちたかったが、日本の教員免許を取得するのに苦労する。千葉県の公立中学校で６年半英語の教師を勤める。そこで得たものは失望ばかりではなかったが、もっと教育改革をしなければ、と再度渡米してコロンビア大学院博士課程に入学する。そこで米国を代表するという教育哲学者のマキシン・グリーン女史の助手をつとめるようになったと。

目次を辿ると、1.教育を市場化した新自由主義改革　2.企業の企業による企業のための教育革命　3.市場型学校選択制と失われゆく「公」教育　4.発展途上国からの「教員輸入」と使い捨て教員　5.PISAと教育の数値化、標準化、そして商品化　6.アメリカのゼロ・トレランスと教育の特権化　7.アカウントビリティという新自由主義的な責任の形　8.「プロ教師」育成の落とし穴　9.シカゴ教員組合ストライキ　10.立ち上がったアメリカの人々　となっている。

どれも現在のアメリカが抱えている教育問題なのだが、外のことと同じで、すぐに、既に日本の問題であると思い至されることだ。この「憲法を読む」欄のための本にあまりシルシをつけたくないのが、こんどはあちこちに傍線を引いてしまった。わけても強く捉われたのは、「教育におけるアカウントビリティ」ということだ。全国学力標準テストで学ぶのは「勉強が将来良い仕事に就くための手段となり、子どもたちの価値がマークシートテストの点数で評価される中、彼らにとって今日の社会はまさに『答えしか提供しない社会』そのものなのではないだろうか。大事なのは正解だけ。彼らが何に興味があるのか、どんな問いを持っているのか、どのように答えに辿り着いたのかは関係ない」。安倍首相は自らが示す教育革命について「学術研究を深めるのではなく…もっと社会のニーズを見据えた、もっと実践的な、職業教育を行う」と発言しているとか。本書は2016年初版発行、既に８刷になっている。単なる理想論ではない、アメリカの公教育の現実をつぶさに見た人が目前の危機を深く掘り下げている。根津さん、ありがとう！

（梶川涼子／事務局）

反改憲ニュースクリップ

福島原発事故から8年、いまだ原発は止まらず

2019年2月16日～3月16日

【2月19日】〈辺野古〉総務省の第三者機関「国地方係争処理委員会」が、沖縄県による辺野古沿岸部の埋め立て承認をめぐり、県の審査申し出を却下。県による承認撤回への対抗措置として国が撤回の効力を停止した手続きについて「瑕疵があるとは言えない」との見解を示した。

【2月28日】〈陸自配備〉沖縄県石垣市への陸上自衛隊配備計画で、資機材や重機を積んだ工事関係車両が、造成工事を予定する民有地の一部に入る。予定地に近い４地区は配備への反対を表明している。

【3月１日】〈憲法審〉衆院憲法審査会の与党幹事らが今国会初めてとなる懇談会を国会内で開催。与党側は、2019年度予算案の衆院通過を受け、３月中に憲法審で議論を始めたい考え。**〈公明〉**斉藤鉄夫幹事長が今国会での改憲議論に関し、国民投票の利便性を公職選挙法にそろえるための改憲手続法改定案を早期にまずは成立させるべきとの認識示す。

【3月３日】〈維新〉大阪市を廃止・再編する大阪都構想の住民投票実施を目指す松井一郎大阪府知事（日本維新の会代表）が、同じ維新の吉村洋文・大阪市長との入れ替えをめざす知事・市長ダブル選を明言。都構想に反対する自民大阪府連とは全面対決になるが、維新を改憲の補完勢力とみなす安倍首相らは静観の構え。

【3月４日】〈ミサイル防衛〉秋田県の佐竹敬久知事が、地上配備型迎撃システム「イージス・アショア」の同県への配備について、予定地が陸上自衛隊新屋演習場（秋田市）内であるとした上で「国の専権事項であり、反対できない」と県議会で表明。これまでの反対姿勢から一転。

【3月７日】〈武器輸入〉高額な防衛装備品に最大で10年間の分割払いを認める特別措置法の改定案が衆院本会議で審議入り。現行法は安倍政権下の2015年に成立。防衛装備品を購入する際に、財政法が５年としている支払いの年限を、航空機など一部の高額装備品については最大で10年まで認めた。改定法案は、今月末に失効する現行法を５年延長するもの。**〈戦争責任〉**アジア太平洋戦争末期にパラオやフィリピンなどで戦争の被害に遭った日本人と遺族計40人が、国に損害賠償と謝罪を求めた「南洋戦・フィリピン戦」国家賠償請求訴訟の控訴審で、福岡高裁那覇支部が、請求を退けた一審を支持し控訴を棄却。戦前の行為について国は賠償責任を負わないとする「国家無答責」の原則を適用した。原告側は上告する意向。

【3月11日】〈原発〉東日本大震災、東電福島第一原発事故発生から８年。中西宏明経団連会長（日立製作所会長）は会見で、「原子力エネルギーは遠い将来を含めて必要という議論を深めるべき」「感情的な反対をする方と議論しても意味がない」と述べる。

【3月12日】〈徴用工裁判〉麻生太郎副総理兼財務大臣が太平洋戦争中の徴用をめぐって韓国が行おうとしている日本企業の資産差し押さえについて、「関税に限らず送金停止やビザの発給停止などいろいろな報復措置がある」などと衆院財務金融委での答弁で述べる。**〈東京五輪〉**2020年東京五輪・パラリンピック組織委員会が、聖火リレーのスタート地点を福島県のスポーツ施設「Jヴィレッジ」とすることを発表。東京電力福島第１原発事故の対応拠点になった施設から出発することで「復興五輪」を印象付ける狙い。

【3月13日】〈安倍発議〉安倍晋三首相が参院本会議で、「国民のため命を賭して任務を遂行する自衛隊員の諸君の正当性を憲法上、明文化し、明確化することは国防の根幹に関わることだ」と述べ、９条への自衛隊明記の必要性を改めて強調。**〈ヘイトスピーチ〉**インターネットに投稿した動画をヘイトスピーチとされた関西在住の男性が、ヘイトスピーチと認定すれば行為者の名前を公表する大阪市の条例は憲法違反だとして市による実名公表の差し止めを求めた訴訟で、大阪地裁が原告の請求を棄却。判決は、大阪市側がヘイトスピーチ投稿者のハンドルネームしか把握していないことから、実名公表をめぐる訴えの利益がないとして請求を退け、憲法判断には踏み込まなかった。**〈辺野古〉**埋め立て海域の軟弱地盤改良に必要な工期を政府が３年８カ月と試算していることが判明。軟弱地盤は、世界でも工事実績のない海面下90メートルにまで達している。

【3月14日】〈高校無償化〉高校の授業料無償化の対象から朝鮮学校を除いたのは不当だとして、九州朝鮮中高級学校高級部（北九州市）の生徒だった68人が国に慰謝料など約750万円を求めた訴訟について、福岡地裁小倉支部が国の除外措置に違法性はないとして原告の請求を棄却。

【3月15日】〈憲法審〉衆院憲法審査会の与党筆頭幹事を務める新藤義孝（自民）が野党筆頭幹事の山花郁夫（立民）と会談。新藤は次週に改憲手続法改定案を憲法審で採決することを提案したが、山花は2019年度予算案の参院採決まで憲法審での審議に応じない野党方針を伝達した。**〈原発〉**四国電力伊方原発３号機の運転差し止めを対岸の山口県東部の住民が求めた仮処分申請で、山口地裁岩国支部が申し立てを却下。原告は原発から30～40キロ圏の島嶼部に居住し、原発事故の際の自治体の避難計画が存在しないことを問題視したが、判決は「過酷事故が発生した場合は、全国規模のあらゆる支援が実施される」として原告側の見解を退ける。／東北電力女川原発２号機の再稼働の是非を問うことを目的とする住民投票条例案を、宮城県議会が否決。

【3月16日】〈安倍発議〉自民党の下村博文憲法改正推進本部長が那覇市で講演。2012年にまとめた党改憲草案にある「国防軍」規定の実現は困難との見方を示す。「専守防衛の自衛隊の性格を普通の軍隊にするもので、各政党や国民の理解は得られない。残念ながら不可能だ」。

集会・行動情報　4/6 ～ 5/3

▶4月6日(土)『ヘイト・スピーチ法研究原論』(前田朗)出版記念会「フェイクにNO！　ヘイトにNO！」◆18：00◆東京しごとセンター講堂(JR・地下鉄飯田橋駅)◆第1部パネルディスカッション：植村隆(ジャーナリスト)、香山リカ(精神科医、立大教授)、師岡康子(弁護士)、司会：渡辺美奈◆第2部「一言」トークコーナー◆同実行委(連絡先：三一書房)

■安倍暴走改憲を許さない！　伊達判決60周年記念集会◆13：00◆日比谷図書文化館大ホール(地下鉄霞が関駅・内幸町駅)◆講演：白井聡「戦後の国体とは何か」、吉永満男(砂川事件再審請求弁護団)「砂川事件再審請求の総括と司法の堕落」、武内更一(弁護団長)◆参加費1000円◆伊達判決を生かす会

▶4月7日(日)笹倉香奈さん講演会「米国と日本の死刑――死刑制度廃止への道は」◆14：00◆ドーンセンター(大阪府立男女共同参画・青少年センター)5階特別会議室(京阪・地下鉄天満橋駅)◆1000円◆講演：笹倉香奈(甲南大法学部教授)◆アムネスティ・インターナショナル日本、死刑廃止ネットワーク大阪

▶4月12日(金)届け私たちの叫び！　銀座・シカゴのユナイテッド航空へ！　4・12銀座デモ◆集合18：30◆築地川銀座公園(地下鉄東銀座駅)◆全国一般・全労FAユナイテッド闘争団

▶4月18日(木)中国人戦争被害者のビザ発給裁判被告国賠裁判原告本人尋問＆報告会◆中国人原告：高鋒(湖南省常徳市の細菌戦被害者)、胡鼎陽(浙江省寧波市NO！細菌戦被害者)、郭承豪(浙江省東陽の細菌戦被害者)◆日本人原告：田中宏(一橋大名誉教授)、高嶋伸欣(琉球大名誉教授)、藤田高景(村山首相提言の会)◆公判：13：30◆東京地裁103号大法廷◆報告会：18：00◆衆院第1議員会館B1大会議室(地下鉄国会議事堂前駅・永田町駅)◆発言：高鋒、田中宏、高嶋伸欣◆ビザ発給拒否・集会妨害裁判を支援する会

▶4月19日(金)安倍9条改憲NO！　安倍政権退陣！　4・19国会議員会館前行動(衆院第2議員会館前を中心に)◆戦争させない・9条壊すな！総がかり行動、安倍9条改憲NO！全国市民アクション

■国際人権入門講座2019「いま、日本の労働者の権利は？」第4回「ILO条約と働く者の権利」◆講師：布施恵輔(全労連国際局長)◆18：30◆青山学院大学・総研ビル8階第10会議室(JR・地下鉄渋谷駅)◆参加費500円◆国際人権活動日本委員会

▶4月21日(日)千住九条の会第8回講演イベント：中野晃一氏講演会「市民と野党の共闘で安倍改憲にストップを！」◆千住介護専門学校5階講堂(JR北千住駅)◆参加費500円◆講師：中野晃一、ゲストスピーカー：元山仁士郎(辺野古県民投票の会代表)◆千住9条の会

■市民のための実践国際人権法講座第14回「強制失踪条約と強制失踪委員会――日本人拉致問題と『慰安婦』問題を考える」◆講師：前田朗(東京造形大教授)◆西部コミュニティーセンター(JR武蔵境駅、バス西部コミュニティーセンター停留所)◆参加費500円◆沖縄と東アジアの平和をつくる会

■墜落と爆音のない空を！　町田商店街・米軍戦闘機墜落事故から55年　4・21集会◆13：30◆町田市民文学館ことばランド大会議室◆講演：金子豊貴男(相模原市議)◆資料代：500円◆厚木基地爆音防止期成同盟会町田支部

▶4月24日(水)朝鮮半島と日本に非核・平和の確立を！　4・24集会◆18：30◆文京区民センター3A(地下鉄後楽園駅・春日駅)◆発言：岡本厚(元『世界』編集長)、小林愛子(広島の被爆者)、李泳采(恵泉女学園大学)◆同実行委員会

▶4月25日(木)2019関西共同行動連続講座(11)3・1独立運動から100年(その3)「徴用工問題と従軍慰安婦問題」――どう解決するのか◆18：00◆エルおおさか南館734(京阪・地下鉄天満橋駅)◆講師：有光健(戦後補償ネットワーク世話人)資料代800円◆関西共同行動

▶4月27日(土)今こそ問い直そう！天皇制　練馬集会◆18：15◆練馬区立厚生文化会館◆講演：伊藤晃「象徴天皇制の正体」◆アキヒト退位・ナルヒト即位問題を考える練馬の会

■私たちは退位・即位とどう向き合うのか？　4・27天皇代替わりに異議あり！関西集会◆13：00◆エルおおさか6F会議室(京阪・地下鉄天満橋駅)◆第1部：講演・太田昌国◆現場からの発言◆資料代1000円◆天皇代替わりに異議あり！関西連絡会

▶4月28日(日)沖縄デー集会◆17：45◆文京区民センター2A(東京メトロ後楽園駅、都営地下鉄三田線春日駅下車)◆講演：天野恵一「アキヒトと沖縄」◆終わりにしよう天皇制ネットワーク(おわてんネット)

▶4月29日(月・休日)反「昭和の日」立川デモ

■「昭和の日」反対大阪集会◆13：30◆国労大阪会館(JR大阪環状線天満駅下車)◆講演：山田朗◆参戦と天皇制に反対する連続行動

▶4月30日(火)退位で終わろう天皇制！新宿大アピール行動◆16：30◆新宿駅東口アルタ前広場◆おわてんネット

▶5月1日(水)新天皇いらない銀座デモ◆16：00◆ニュー新橋ビル地下2Fホール◆おわてんネット

▶5月3日(金・休日)2019平和といのちと人権を！5・3憲法集会――許すな！安倍改憲発議◆11：00◆有明防災公園(東京臨海広域防災公園)(りんかい線国際展示場駅、ゆりかもめ・有明駅下車)◆5・3憲法集会実行委員会

▶(2月6日)から6月23日(日)まで　高麗博物館2019企画展示「3・1独立運動100年～東アジアの平和と私たち」◆12：00～17：00(月・火休館)◆高麗博物館展示室(第2韓国広場ビル7階)(地下鉄東新宿駅・A1出口)◆400円

▶「反改憲」運動通信：1部400円(月1回発行／第14期：2018年6月～2019年5月)
▶事務局・連絡先：〒101-0063　東京都千代田区神田淡路町1-21-7　静和ビル2A　淡路町事務所気付
▶Fax：03-3254-5460▶E-mail：hankaiken@alt-movements.org▶https://www.alt-movements.org/han-kaiken/
▶年間定期購読料：印刷・郵送4000円／PDF・Eメール3000円　▶郵便振替：00190-7-11558「反改憲」運動情報通信